

銀河めぐり [XII]

NGC 224 (M 31)

アンドロメダ星雲

銀河めぐりのしめくりはこの“大星雲”以外にはない。星雲界の女王である。いうまでもなく、アンドロメダ星雲はわが銀河系のすぐお隣の島宇宙であり、太陽から約 690 kpc (220 万光年) の距離に位置し、銀河系とともに局所銀河群の双頭をなしている。銀河系より若干規模が大きいから、伴星雲も NGC 221, 205, 185, 147, And. I, II, III 等々にぎやかである。北天においては、天の川を除いて、肉眼でみることのできる唯一の銀河であり、かつ肉眼でみえる最遠の天体でもある。

アンドロメダ星雲は渦状銀河 (SA(s)b) の1つであるが、その回転軸は視線方向に対して 77° 傾いている。だから残念ながらそのきれいな渦状腕を簡単に眺めることはできない。もしこの傾きが 0°, 即ち丁度真上から望む形になっていたら、銀河の渦状構造について我々はもう少し深く理解できていたに相違ない。あるいはいっそ 90° であってもよかったであろう。だがこれはどうやらお互い様らしい。というのもアンドロメダ星雲は銀緯

-22° の方向にあり、かの地の天文学者達にもわが銀河系は中途半端に傾いたなんともうらしい存在に違いないからである。

この星雲の存在はすでに 10 世紀には文献に現われており、17 世紀初頭には望遠鏡で観測されている。現在ではγ線から電波にいたるまであらゆる波長の窓を通して観測が行われており、あらゆる意味で銀河研究の要である。1974~1978 の4年間にアンドロメダ星雲についてかかれた論文は実に 150 篇以上に達している。

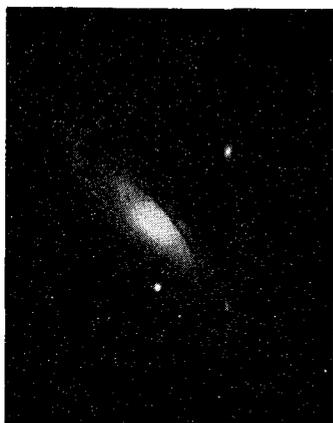
アンドロメダ星雲について最も記念すべき日をあげよといわれたら、1923年10月6日であろうか。この日ハッブルはウィルソン山の 100 インチ鏡を用いて撮ったかの星雲にセファイドを発見し、この星雲が銀河系外の天体であることを最終的に確証する足がかりをつかった。

(吉澤正則)



◇ 12月の天文暦 ◇

日時	記	事
3 13	月	最遠
7 8	大雪	(太陽黄経 255°)
7 24	朔	
14 15	海王星	合
15 11	上弦	
19 14	月	最近
22 2	冬至	(太陽黄経 270°)
22 3	望	
29 16	下弦	
31 8	月	最遠
31 18	水星	外合



◇ 12月の日月惑星運行図 ◇

